



発行所  
県支部事務局  
第 22 号

支部長御挨拶



新潟支部長  
新保 隆

新潟支部長  
の新保でございます。  
います。この

一年間を振り返ると、昨年十月七日に久  
比岐高校長坂上隆先生、両津高校教頭  
中田亮一先生を講師にお迎えし、高校教員  
を対象に十一名の参加を得て研修会を開  
催できました。本年八月三十日には、中  
越地区が担当し、大学からは渡辺恒夫理  
事（長岡市出身）様、理窓会からルネッ  
クス特別推進委員の山田義幸様をお迎  
えし、三十名が出席されて二十年度総会  
・懇親会を開催することができました。  
これも偏に、新潟支部会員の皆様の御協  
力の賜であり、厚く御礼申しあげます。  
総会では、国際情報高校長上野順治先生、  
糸魚川白嶺高校長日野顕英先生、阿賀黎  
明中・高校長加藤弘先生を新たに副支部  
長にご委嘱申しあげました。

今年度研修会は十月十一日に糸魚川白  
嶺高校日野顕英先生、阿賀黎明中・高校  
長加藤弘先生を講師にお迎えして開催し  
ました。今年度は、岩根卓司副会長から  
御提言をいただき、中学校の管理職の先  
生方へも御案内をいたしました。子ども  
たちの気質が変化し、教育の改革が進む

中、中学校・高等学校の連携がより重視  
される時代には、研修会のあり方も改善  
が必要なことかと思えます。また、高校  
入試の学区が廃止され、従来にも増して  
各高校の教育力、教育の成果が問われる  
時代です。このことは、何も高校間の競  
い合いを意味するのではなく、全国に伍  
して活躍できる新潟県の若者を育てる高  
校教育のあり方を考えるという視点が大  
切だと思います。

中学生にとっては高校の選択幅が広が  
り、以前にも増して各高校の特色を見据  
えた進路選択が必要なことと思えます。  
このような時、大学の同窓として、胸襟  
を開いた中高の連携・情報交換の機運が  
高まればと思っております。さらに、こ  
の研修会を通して中堅教員が、教科指導、  
生徒指導、学校運営など自校の教育力向  
上を図り、新潟県の次の時代の教育を担  
う気概を持ってくれればと願うところで  
す。

さて、母校では昨年度は野田キャンパ  
スで「ホームカミングデー」が開催され、  
私も参加して、しばし二十歳代ヘタイル  
スリップしてきました。本年度は十一月  
三日に神楽坂キャンパスで開催され、地  
域と一体となった行事も計画されている  
と聞いております。交通至便の地であり、  
家族旅行を兼ねて、家族の皆様と参加さ  
れてはいかがでしょうか。  
本年度もどうぞよろしくお願いま  
す。

◇新潟支部総会◇

平成 20 年 8 月 30 日（土）理窓会新潟支  
部総会が中越地区のお骨折りにより、  
青善会館で開催されました。  
総会での議事の内容につきましては、  
後述の通り承認されましたことを報告  
いたします。



今回は、理窓会本部より理事の渡辺  
恒夫様、ルネックス推進特別委員の  
山田義幸様にお出でいただき、講話と  
報告を賜りました。また、新潟父母会  
の田中敏彦様、長谷川豊様にもお出で  
いただきました。皆様には二部の会ま  
で御出席いただき、心より感謝申し上  
げます。

来年度は上越地区の当番となってお  
りますが、何卒よろしくお願いたし  
ます。

◇役員改選◇

支部長 新保 隆  
副支部長 岩根 卓司 木南 誠  
室岡 政幸 森 久  
中野 晋 坂上 隆  
熊谷 正美 水尻 繁満  
佐藤 茂樹 加藤 弘  
日野 顕英 上野 順治

地区幹事 平成 20 年度版名簿に記載  
県幹事 平成 20 年度版名簿に記載  
顧問 平成 20 年度版名簿に記載

◇平成 19 年度事業報告◇

- 支部役員会開催 7 月 8 日 新潟会館 19 名
- 支部総会開催 8 月 26 日 新潟東急イン 28 名
- 会員名簿発行（8 月版）8 月 26 日 A4 24 頁 40 部
- 研修会開催 10 月 7 日 新潟会館 11 名

- ・会報「新潟理窓」発行  
3月28日 B5 6頁 558部

◇平成20年度事業計画◇

- ・支部役員会開催  
7月13日 新潟会館 17名
- ・支部総会開催  
8月30日 青善会館(長岡市)
- ・会員名簿発行(8月版)  
8月30日 A4 24頁 50部
- ・研修会開催  
10月11日 新潟会館
- ・会報「新潟理窓」発行  
11月中旬 B5 6頁 600部
- ・会員名簿発行(1月版)  
1月中旬 A4 24頁 100部

◇平成19年度会計収支決算◇

○収入の部

繰越金	231	256
会費	94	840
本部補助	65	000
雑収入	15	705
合計	406	801

○支出の部

支部総会補助	38	1000
会議費	10	395
名簿・会報	12	926
送料	51	350
事務用品		390
資料代	6	000
合計	119	1611

◇平成20年度会計予算◇

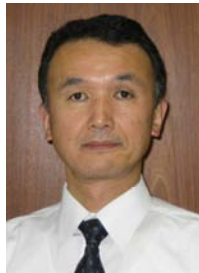
○収入の部

繰越金	287	640
会費	100	000
臨時徴収	6	000
雑収入	1	360
合計	395	000

○支出の部

支部総会補助	30	000
会議費	20	000
地区還元金	4	000
名簿・会報	20	000
送料	73	500
事務用品	10	000
資料代	6	000
予備費	231	500
合計	395	000

御挨拶



副支部長  
日野 顕英

このたび  
理窓会新潟  
支部の副支

部長をおおせつかまりました、日野でございます。この四月より、県最西端である糸魚川白嶺高等学校長を拝命しております。今から五年前には、村上高校山北分校へ行けと言われたので、新潟県の最北端と最西端を経験することになりました。

母校理科大は、百三十周年を迎えよう

としていますが、勤務校は平成二十三年度に、糸魚川商工高校として誕生以来五十年を迎えます。共によりき伝統を守りつつも、新たな伝統づくりが必要だと思えます。

理科大在学時、三年の数学研究、四年の卒業研究とも、関数論の若き宮原靖教授のゼミにお世話になりました。

このゼミに入るには、野球が上手で、秋のゼミ対抗ソフトボール大会で、微分幾何の山口ゼミに勝つことを求められました。また、宮原ゼミは、縦のつながりも大切に、OBは「浩洋会」という名称で毎年忘年会を開いていました。現役の四年生が幹事となって卒業生へ案内したり、会の進行したりして、北は北海道から南は鹿児島までの卒業生が集まり親交を深めていました。その宮原先生も、三年前に退官しましたが、最後の四年生だった方が幹事をして続いています。たいへんありがたいことです。

高校の学習指導要領が改訂されようとしています。当時の高校の教育課程は、文系・理系を問わず、社会や理科の科目は、どの学年でやるかは別として、選択は許されていませんでした。指導要領でセットされている科目はすべて履修する仕組みでした。私は文系で法学部志望でしたが、二年時の数学の担任と友人のおかげで三年から理系に転じました。受験科目は、国・数・

英の他、日本史と物理と化学です。私

立専願という仲間もいないわけではないですが、ほとんどの仲間は、国立と私立の組み合わせで受験しました。だから日本史も最後まで勉強しましたし、東京まで出かけて受けた模試の偏差値も日本史が最高でした。理科大の入試科目に、理科と社会が選択できれば、迷わず日本史にしたと思います。受験科目は一年の生物と地学でも、二・三年の世界史と倫理でも、三年理系のクラスで勉強中である政経でもよかったですから、私のような将来を考えるのが遅い生徒には、とてもありがたいカリキュラムでした。

今、理科大の数学科は英語と数学だけでなく、理科はならず、国立の理系にいたっては、センター倫理だけでもよい時代となりました。高校の教育課程でも進学校カリキュラムへの再編が進んでいます。まるで四十年前の高校紛争のお題目にあった、高校の大学予備校化です。本当にこれでよいのかなと思います。私立の理系でもセンター地歴Bを課し、国立理系に至っては、個別入試にも地歴Bを課すぐらいでないといけないのではないかと思います。つまり、高校では、進学で合格させるカリキュラムより、高校でたっぷり勉強させるカリキュラムの必要性も感じているところですよ。

長々と勝手な思いを綴ってしまい、失礼をいたしました。きつと思いと行動は別なのかもしれません。いつも上

杉先生にお任せになってしまっていて申し訳ありません。今後ともよろしくお願いいたします。

### 御挨拶



副支部長  
加藤 弘

この度、理窓会新潟支部副支部長として、理事加藤と申します。新保支部長の指導のもと、微力ではありますが、理窓会発展のためにお手伝いできればと思っております。よろしくお願いいたします。

私の勤務しております県立阿賀黎明中学校・高等学校は、平成十四年に県内初、全国で四番目の公立併設型中高一貫校としてスタートしました。創立百年の歴史と伝統を持つ津川高等学校を改組・改称し、新しく誕生しました。同一の校舎に中学校と高等学校が併設され、中高一貫教育校の中でも「併設型」と呼ばれるタイプの学校です。中山間地に設立された中高一貫校として、全国にも数少ない学校の一つであります。

この三月に第一期生が卒業し、今年で七年目を迎えます。この春の卒業生は、中高一貫教育校としての真価が問われたわけですが、進学で言えば、二十二名の生徒が大学・短大に進学しました。その

うち、国立大学に七名の生徒が合格しました。

目的意識を持って勉学に励む生徒、それを親身になって指導する教職員、さらにそれを支えてくれる保護者や地域の方々、この三つの力が一緒になって努力することが、何よりも大切であると実感しております。

さて、私の理窓会との出会いは、新採用から二校目の燕高等学校で、若井静男先生から紹介されたのが、きっかけでした。それ以来、たびたび県支部総会に参加させていただきました。

平成十七年度には県支部総会の当番地区が中越地区であったことから、当時、長岡高等学校に勤めておりました関係上、加茂高等学校の上野茂男校長先生のご指導のもとで、総会を運営させていただきました。

理窓会常任幹事の山田義幸先生から、「東京理科大学の現状について」と題してご講演いただき、父母の会からは、添田敦子様よりご出席いただきました。会員の皆様、その節は大変ありがとうございました。今後も、会員相互の親睦を深め、情報交換の場となりますことを願っています。

最後になりましたが、理窓会新潟支部の益々の発展を祈念いたしまして、挨拶とさせていただきます。

### 御挨拶



副支部長  
上野 順治

「今度の校長は話が長い」と生徒から酷評され、改めて自らの言動と校長職の職責の重さを感じつつ、悪戦苦闘しながらも、早、半年が経とうとしています。国際情報高校は、平成四年に大学進学への夢と希望の実現をさせる学校として県の肝入りで設置され、今年で17年目を迎える学校です。入学定員は一六〇名と少数なので、先生方は所属する学年の生徒の名前と顔を早々に一致させ、個に応じた指導をみん

なで考え協力して行っています。本校の特徴は、小規模であるがゆえに小回りがきくこと、面倒見のよいエネルギーが豊富で、面談の機会が多いこと、生徒は素直で頑張り屋が多いこと、保護者の皆様が学校を信頼して協力的であることが上げられます。

本校は、広く全県から生徒を集め進学実績を上げてきていますが、近年、定員確保に厳しい状況が続いています。この課題を解決するために、今年度から国際文化科と情報科学科のくり募集を実施し、入りたい生徒が出席しやすいよう工夫したところであります。時間を見つけては中学校を訪問し、「決して敷居の高い学校ではありません、

高い志を持って努力する生徒の夢と希望を実現に向けて、保護者・職員がみんなでサポートする学校であり、言わばみんなで頑張る学校です。そのことがこれまでの実績につながっています」と説明し、出願に向け協力をお願いします。まさに「足で稼ぐ生徒募集」を実践しております。遠くまで校長自ら出向くことに驚かれますが、「先生方は生徒を伸ばしますので、私は生徒を集めるのが仕事です」と答えています。

本校の理科大への合格者数は今年度延べ39名ありましたが、実際の進学者は3名となっています。東京物理学校時代からの伝統と実績に対して高い評価を受けていることが、生徒のあこがれに繋がっています。理学・工学・薬学などの発展に大きく貢献し活躍している大学の姿を、これまで以上にマスコミ等で知ることができれば進学者数の増加に繋がるのではないかと考える昨今です。

最後に、埼玉県で教員となり、その後、新潟県に戻り現在に至っています。この間、同窓の皆様温かい御支援や御協力があり、その都度、理窓会のすばらしさを痛感いたしました。この場を借りて改めてお礼申し上げます。非力ではありますが理窓会がより発展するために尽力したいと考えていますのでよろしくお願いいたします。



# 活力を感じるPTA

S 50 理・化

竹内 文亮

十日町高校に赴任して2年目ですが、一番感じたことがPTAが活発なことです。本年4月から11月までの、PTAの活動状況を紹介します。

## I 十日町高等学校

十日町高等学校は大正15年に創立され、本年度創立83年を迎えます。全日制と定時制が同じ校舎に併設された普通科だけの学校です。クラス数は全日制は1学年9クラス、定時制は1学年1クラスの合計31クラス、生徒総数が二〇〇名弱の大規模な学校です。全日制の生徒はほとんどが十日町市と津南町に在住していますが、「ほくほく線」を利用した上越市や南魚沼市からの通学者も見られます。現在は卒業生の多くは進学しますが、今から20年ほど前の平成元年では就職者が二〇〇名位(約30%)いるような状況でした。部活動も盛んで、クロスカントリースキー、陸上競技、空手、ソフトテニス、卓球そして野球が運動部で、美術、写真、演劇、吹奏楽が研修部(いわゆる文化部)で良い成績を残しています。生徒には雪国に育った者もつ粘り強い精神力と実直さを感じます。

## II PTA活動

十日町高校のPTAは広報部、生活指導部、進路指導部の3専門部があります。会長が1名、副会長が5名、各専門部には15名ずつの部員がいます。

広報部はとても元気で、「PTAだより」を年3回(7月、12月、3月)発刊するのですが、取材活動がとても活発です。体育祭や南陵祭(文化祭のこと)での写真撮影が中心ですが、それ以外の講演会や公開授業などにも時間を割いて来校してくださいませ。年間7回の編集会議がありますが、広域から集まって夜遅くまで活動していただいています。

生活指導部も元気が良く、十日町市の夏の大祭の際の巡回指導、家庭での服装指導、そして高校生携帯電話の使用の実態を知る講習会を3つの柱として活動しています。夏の大祭は市の補導員とPTA部員と教師が10名前後の3つのグループに分かれ、夜間、市内を歩いて巡視し、祭りに来ている生徒に声をかけました。空き地や駐車場の暗がりなどを見回ります。また、9月には女子の短いスカート丈を直すことを中心に、制服の正しい着こなしを学校だけでなく家庭でも指導しようと、生徒が朝、家を出る際に保護者がチェックするポイントを明示したプリントを作成し保護者に配布しました。さらに11月には「知らない大変! 高校生の携帯電話の使用の実態」という講演会を開き、実際に携帯電話を参加者全員が操作して、生徒の作成した掲示板やプロフ等にアクセスする方法を学ぶ機会を昨年度から実施しています。本年は二〇名近い保護者が参加しました。講師は本校生徒指導部長で、その際15名の職員が保護者の操作の手伝いをいたしました。

た。

進路指導部は更に元気が良く、本校の進路指導部との懇談会、他校視察、保護者への経験者からのアドバイスする講話会を3つの柱として活動しています。6月に本校の進路指導部の職員と今春の進学結果について報告を受ける場を設け、進学状況や傾向を知る機会としました。10月には最近進学面であまりかかっている六日町高校へ保護者だけで視察に行き、六日町高校の進路指導部、校長などを交えた両校のPTA懇談会でいろいろなお土産(情報)を得てきたようです。そして11月に、今年で3回目となる、1、2年生の保護者を対象にした「知って得する親のための進路講話会」を開き、進学させた卒業生の保護者から、進学先の決定、模擬試験の結果の見方、受験や進学にかかる経費について話を伺うとともに、六日町高校と国際情報高校と本校の学習面や進学面についての比較を行う会を催しました。参加者は250名を越えました。そのときには質問や本校への要望も多く出されました。一方、3年生向けには時期を早め、8月に実施し、こちらは60名の参加者がありました。

このようにPTAの各専門部が元気に活動しております。このほか南陵祭にはPTAが無料の「珈琲処」を出展しました。今年で2年目ですが、教室で開きました。休憩所を兼ねており、コーヒーを飲みながら、体育祭のDVDを鑑賞する内容で、来校した多くの保護者が立ち寄りました。また、ここで上映した体育祭のDVDはPTAが自ら作成し、200円で二〇〇枚販売しました。このように今年も半年の間に、次から次へと、目を見張ることばかり続きました。

PTAの方々には生徒の幸せを念じ、また高校に期待し、共に生徒を育てていく気持ち強いことを再認すると共に、教職員も保護者から励まされ、元気をもらった半年でもありました。

◇事務局からの連絡◇  
①会報「新潟理窓」について  
・投稿大歓迎です。原稿を事務局連絡先のメールアドレスまで、デジタルデータでお送りください。  
②ホームページについて  
・理窓会新潟支部の活動は、室岡副支部長により、ホームページ上で公開されています。アドレスは、  
「http://www17.ocn.ne.jp/~niruoka/index.html」です。

③支部会費について  
・年会費は1000円です。同封の振込用紙にてお願いします。  
④名簿について  
・支部会費納入確認後、該当者に送付いたします。

⑤事務局連絡先  
新潟市秋葉区新金沢町29-14上杉肇  
電話&fax 02550220312  
e-mail:GH03107@nifty.ne.jp